

平成29年度

茨城県国際化推進奨励賞 活動の紹介



茨城県国際課

目 次

平成29年度茨城県国際化推進奨励賞

[個人]

- 外之内 登美【小美玉市】 2
[小美玉市推薦]

[団体]

- 外国人自主防犯ボランティア団体「太陽」【常総市】 3
[茨城県警察本部推薦]
- 茨城大学「まなびの輪」【水戸市】 4
[大洗町国際交流協会推薦]
- はさき漁業協同組合【神栖市】 5
[(公財)茨城県国際交流協会推薦]
- 那珂市国際交流協会【那珂市】 6
[那珂市推薦]

外之内 登美【小美玉市】

[小美玉市推薦]

<http://www.city.omitama.lg.jp/0034/info-0000001527-2.html>

■ 活動内容等

小美玉市の姉妹都市であるアメリカ合衆国カンザス州アピリン市との交流において、小美玉市の姉妹都市事業の創設前から現在まで、語学力を駆使し、通訳として互いの文化の違いを超えて交流し、小美玉市民の姉妹都市交流への理解及び異文化への関心の高揚に大きく貢献してきました。

受入と派遣を隔年で実施しているホームステイによる訪問団事業では、6度の訪問（うち1回は団長として）と、受入れでは毎回ホストファミリーとして関わっており、姉妹都市との友好関係の形成において、他の模範となって活躍しています。

小美玉市が姉妹都市から招へいしているALTの生活サポートも、初代から25年間継続しており、歴代のALTとは現在もメールなどで連絡を取り続けているなど、交流に欠かすことのできない存在として、ALTと小美玉市及び小美玉市交際交流協会の連携に重要な役割を果たしています。

現在は、語学ボランティア「野いばらの会」の会長として姉妹都市交流事業を中心的な立場で支えており、小美玉市民のみならず、アピリン市の姉妹都市委員会及びアピリン市民からの信頼も絶大です。



外之内さんの牧場にて



姉妹都市訪問のお別れのスピーチ

■ 受賞者からの一言

今回の受賞は身に余る光栄です。

33年間続いた姉妹都市交流に締結当初から携わってこられたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。家族をはじめ、多くの関係者の方々のご理解とご協力を頂いたおかげで、微力ながら国際交流に貢献できたことをとても嬉しく思います。

33年という時の流れの中で様々な変化がありましたが、この交流が末永く続くことを願い今後も‘野いばらの会’のボランティアの仲間とともに活動を継続していきたいと思っています。

茨城大学「まなびの輪」【水戸市】

[大洗町国際交流協会推薦]

Facebook「まなびの輪」／ Twitter「茨城大学まなびの輪 @manabino_wa」

E-mail: manabinowa.ibaraki@gmail.com

代表者: 村上 柚香里

■ 活動内容等

「まなびの輪」は、大洗町在住の外国人が一町民として日本人とともに心地よく日常生活が送れることを目指し、平成26年に多文化共生を学ぶ茨城大学の学生を中心に設立されました。

以降、日本語教室や「おしゃべり広場」、小学校の取り出し授業のサポートを通じ、町内在住外国人が地域に溶け込み、日本人住民との言葉の壁を克服し心地よく生活できるよう、大洗町国際交流協会や町内小学校と連携して、町内の異文化交流・多文化共生、相互理解の促進に大きく寄与しています。中でも、日本語教室は、日本人と大洗町在住外国人が中心となって企画・設立したため、学習者とボランティアの両方が主体として参加することで、安定した参加人数を保って活動が継続できています。

当初は学生中心でしたが、「日本語ボランティア養成講座」でボランティアの募集・養成を行うことにより、現在は日本人ボランティアも多数在籍しています。小学校の取り出し授業の支援や「おしゃべり広場」では、外国につながる児童やその保護者との関係構築にも注力し、それにより日本語教室の学習者も増えるなど、多方面での活動が実を結んでいます。

大学生なので、メンバーの入れ替わりは不可避ですが、引継ぎ体制や活動の理念が確立されていること、各学習者の勉強の進捗状況等のデータベースが構築されていることから、メンバーが変わっても、学習者に不安感を与えることなく継続的に活動が進められています。



おしゃべり広場の様子



授賞を喜ぶ学習者とボランティア
(日本語教室にて)

■ 受賞者からのひと言

この度は、名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に思います。

私たち「まなびの輪」は、「大洗町が日本人・外国人ともに、心地よく暮らすことのできる地域になること」を目標として活動してまいりました。

これまで行ってきた私たち「まなびの輪」の活動は、ともに活動に関わってくださる大洗町の方々ぬきにしては、決して継続することができなかつたものです。この度の賞は、これまで活動に関わってくださったすべての方々とともに頂いた賞だと思っております。

今後も、大洗町の人々との関係を大切にしながら、継続して活動に励んでいきたいと思っております。

外国人自主防犯ボランティア団体「太陽」【常総市】

[茨城県警察本部推薦]

https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/foreigner/index.html

代表者：ギマラエス マルシア ミツコ ペレイラ

■ 活動内容等

「太陽」は、常総市において外国人が関係する事件や事故が年々増加傾向にあったことから、自主防犯意識の高揚と地元住民と共に地域の安全に貢献することを目的に、県内初となる外国人自主防犯ボランティア団体として、(株)太陽コーポレーション(代表取締役社長 ギマラエス マルシア)を母体としたブラジル国籍を有する従業員等により、平成20年1月25日に設立され、現在の構成員数は約250名を数えます。

設立以来継続して行っている、日本語とポルトガル語で併記した「防犯パトロール中」のステッカーを貼付した従業員送迎車両を活用した、朝夕の通学時間帯における学校周辺や通学路の防犯パトロール活動は、10年目を迎えました。

また、県警察からの推薦により、警察庁から活動支援(平成22年6月～防犯パトロール用品の無償貸付)を受け、パトロールベストや帽子等を活用した小学校周辺の警戒活動や街頭立哨、水海道駅周辺における合同パトロール、街頭キャンペーン参加による広報啓発活動など、主に子どもの安全を確保する活動を随時行っています。

外国人自らが地域の安全に積極的に取り組むことにより、自主防犯意識の高揚だけでなく、外国人自身の共生意識・地元意識の醸成や、地域住民との相互理解の促進に大きく貢献しています。



街頭立哨の様子



防犯パトロールの様子

■ 受賞者からの一言

このたび、私どもの活動に対して栄えある賞をいただき、誠にありがとうございます。

私どもの会社は、常総市を基盤として20余年にわたり事業運営に携わるとともに、率先して防犯活動に取り組むことで、少しでも地域に貢献したいという思いから、平成20年に外国人自主防犯ボランティア団体を発足させ、今日まで常総警察署等と連携しながら、朝夕の通学時間帯における防犯パトロールを中心に活動してまいりました。

今回の受賞は、皆様の多年にわたるご支援、ご協力の賜物であると深く感謝しております。

これを励みとして、今後も本活動を続けながら、地域の安全安心のため取り組んでまいりたいと思います。

那珂市国際交流協会【那珂市】

[那珂市推薦]

www.ieanaka.jp / www.facebook.com/nakakokusai

代表者：高畠 清秀

■ 活動内容等

那珂市国際交流協会は、1990年8月に那珂町（当時）の円滑な国際化の推進を目的に発足し、同10月に那珂市と米国テネシー州オークリッジ市が国際親善姉妹都市盟約書の締結を調印して以後、同協会が中心となって、両市の交流を育んできました。

盟約締結の翌年から実施している両市の中学生交換交流事業は、27年に渡って継続され、これまでの実施回数及び参加者数は、オークリッジ市派遣23回・279人、那珂市への受入れ22回・254人に上ります。那珂市及びオークリッジ市の中学生10人が、毎年7月及び8月に相互訪問することが特色で、行くだけ、来るだけの単発交流事業とは異なり、参加者相互の家庭にホームステイする交流形態によって、より深い友好関係が育まれています。

平成29年度からは、Sky p eを使用して事前交流を行うなど、時代の流れとニーズに配慮した効果的な交流を図っています。兄弟姉妹、親子2世代に渡る参加など、事業のすそ野も広がってきており、参加経験者からも、中学生という多感な時期に、外国の生活及び文化に触れることで将来の選択の幅が広がり、異文化への寛容性が身についたと好評で、1人でも多くの人にこの経験をさせてあげて欲しいとの意見も多数寄せられています。今後も、国際的視野をもつ人材の育成に寄与することが期待されます。



両市中学生の交流の様子
(両市の名前を書いた砂浜にて)



オークリッジ中学生と会員の交流
(日本文化体験にて)

■ 受賞者からの一言

当協会は、231人・28団体の会員の皆様のご支援とご協力をいただき活動を行っています。

インターネット等の普及により、世界と簡単につながることができるようになった現代においても、顔と顔を合わせ、互いの生活を体験、共有するからこそ生まれる友情の絆があると思います。交換交流事業に参加する中学生たちは、ホームステイを通して、考え方や行動様式の違いを乗り越えて友情を育み、ホストファミリーや本交流事業に携わる人々の優しさや温かさを受け、国を超えた人と人との繋がりを認識することができていると感じています。

今後も、本事業の充実と発展を目指しつつ、両市の友好交流の推進に貢献できるよう活動を継続してまいります。

はさき漁業協同組合【神栖市】

〔(公財) 茨城県国際交流協会推薦〕

代表者：篠塚 進

■ 活動内容等

平成27年度から、インドネシアからの外国人技能実習生（19～25才）の受入れを開始した「はさき漁業協同組合」は、技能実習生の寮やインターネット環境などの住環境の整備や精神面でのケアなど受入れ体制づくりを進めるとともに、技能実習生と地域住民との文化交流等を積極的に行い、お互いの間に顔の見える関係を築くことで双方の不安を解消し、技能実習生と地域住民との相互理解の促進を図っています。

神栖市国際交流協会と連携して、技能実習生と市内高校生との日本文化（茶道、書道、空手）交流やお互いの生活・文化・夢などをテーマにした意見交換を実施しているほか、地元の大潮祭りに参加して住民と一緒に神輿を担いだり、成人を迎える実習生のうち希望者は地域の若者と一緒に成人式に出席するなど、技能実習生が地域の行事にも積極的に参加しています。

今では、漁協近くの衣料品店の従業員さんから「最初は見慣れない外国人が一斉に来店して驚いたが、今が大事なお客さんです。」と言われるまでになり、技能実習生は地域活性化の担い手としても期待されています。

はさき漁業協同組合のこのような活動は、2017年3月に総務省が発行した「多文化共生事例集」にも取り上げられ、他の技能実習生受入れ団体にとっても先進事例となっています。



地域の祭礼である大潮祭りに全員で参加



地域の高校生との交流会「書道」

■ 受賞者からのひと言

技能実習生の受入れから僅か3年余りで当組合が受賞の栄に浴しましたことに、推薦をいただいた茨城県国際交流協会様をはじめ、平素より、当組合の受入れ事業に甚大なるご協力をいただいております神栖市国際交流協会の皆様に変感謝をしております。

日本国内で技能実習生と言えば労働力不足からの長時間労働、低賃金などがクローズアップされるところですが、現在、当地域の漁業は幸いなことに日本人による労働力がある程度確保されています。そこには乗組員に対する待遇の改善に加え、この地域の漁業が好調であるためと思われます。今後も技能実習生に対して新興国への技術移転、国際貢献事業には及ばないまでも、技能実習生と漁業者、そして地域が Win-Win の関係であることを目指していきたいと思っております。

